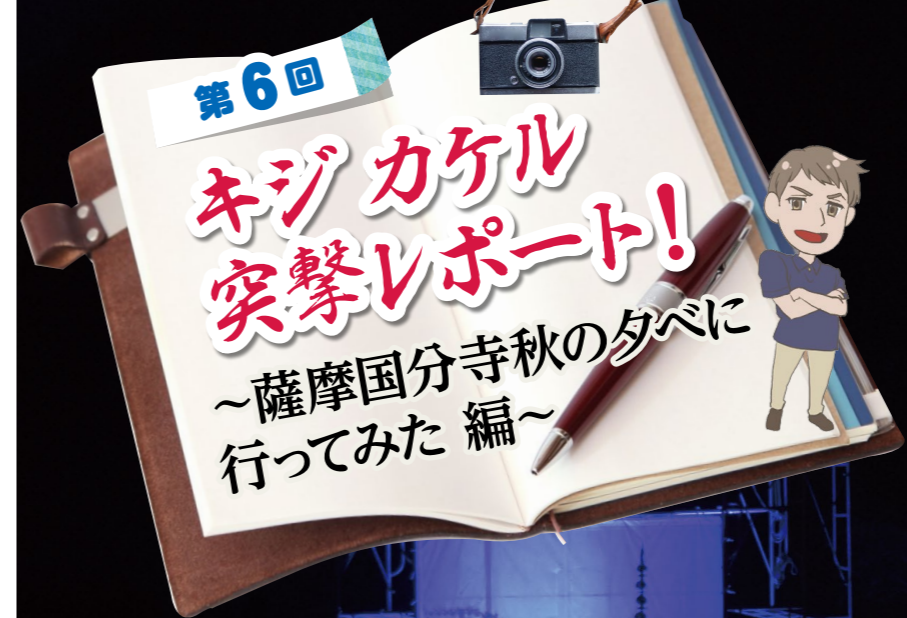


# 薩摩国分寺 秋の夕べ

いにしえ語り  
〜新しき年の初め〜

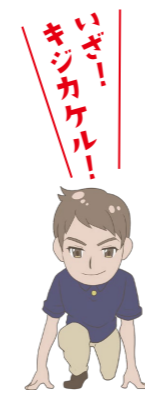


今回は、薩摩国分寺秋の夕べが、10月5日(土)に開催されると聞いて調べに行ってみました。薩摩国分寺の建立は、発掘調査によって、奈良時代末期頃と推定されていますが、九州征伐の豊臣秀吉軍の襲撃に遭い全焼その後、江戸時代に島津光久により再建された後、明治2年廃寺となりました。

現在、薩摩国分寺跡は国指定の史跡となっており、同史跡公園を芸術活動などの発表の場として活用し、地域文化の振興を図る目的で「薩摩国分寺秋の夕べ」が開催されています。

本日は、昨年に記念すべき第20回で盛大なイベントになる予定だったんだけど、台風により、やむなく中止にしたんだそう。ということは、今年のイベントにかけるスタッフ、参加者の思いや意気込みは、相当なものはず。

これは是非でも行ってみたいと。



▲キャンドルアートの点灯

いよいよ秋の夕べがスタート。会場の一角に用意された大型スクリーンには、薩摩国分寺の歴史が映し出され、寺の建立から史跡公園に至るまでの経緯が語られました。



解説の声に耳を傾けながら、歴史にゆっくり思いを巡らせ、「令和」へと続く壮大なストーリーに浸りました。

続いて東郷学園義務教育学校吹奏楽部22人による演奏で幕開け。



皆さんもご存知のとおり、東郷学園義務教育学校は、今年4月に開校したばかり。いにしえより伝わる薩摩国分

寺の歴史と、新しく幕を開けたばかりの東郷学園義務教育学校の歴史。

キャッチコピーの「いにしえ語り」新しき年の初め」と相まって、見るもの、聞くもの、心を震わせます。

歌とダンスを取り入れた楽曲「パプリカ」と勢いよく弾むようなロック調の「ディーパールメドレー」の2曲の演奏は、会場内の聴衆を魅了し、演奏終了と同時に拍手が沸き起こりました。

キャンドルアート点灯式では、七重塔をイメージしたミニチュメントに7色の明かりがともると、約5000個のキャンドルアートとともに全体アートが完成しました。

この七重塔は、かつて聖武天皇



皇の勅命により、各地に国分寺が設置された際に、寺院と同じく建設が進められたといわれていることにちなんで制作されたもので、市内のボランティア団体や地区コミュニティ協議会など延べ150人で作成したキャンドルアートとともに、この秋の夕べ最大の演出となりました。

会場内に浮かび上がった七重塔の鮮やかなともしびとキャンドルアートの穏やかな光は、美しいの一言だけでは言い表せないほど幻想的で魅力的な空間をつくり出していました。



点灯式の後は、再び大型スクリーンが登場し、「いにしえ語り」万葉を彩る人々」と題して、大伴家持をはじめとした元号「令和」の基となったゆかりの人々や場所などが紹介されました。



▲会場に出現した大伴家持の像



▲披露された高江太鼓踊り保存会による太鼓踊りは、市無形民俗文化財に指定されています。



▲川内純心女子高等学校ハンドベル部のOGで結成されたHello Bell Ringers(ハローベルリンガーズ)



▲YULYさんと山崎トムさんの2人による心に語りかけるような歌と演奏のコラボレーション

薩摩国分寺は、これまでの発掘調査により配置の全容がほぼ明らかになっています。中軸線上に南大門・中門・金堂・講堂・北門を配置し、東寄りに塔、西に西金堂といった配置が分かっています。創建時の想定模型については、川内歴史資料館で観覧することができます。

秋の行楽シーズン、皆さんも国分寺跡史跡公園を散策しながら、創建当時の歴史と文化に思いをはせ、歴史と文化の薫りを味わってみてください!

皆さんが知りたいことや紹介したいことなどがありましたら、情報をお寄せください。キジカケルが取材に伺います。

問合せ/本庁広報室広聴広報グループ  
☎(23)51111  
(内線632)